



コミュニケーションは「嘘なし」で

私は子どもに対し、嘘を使わないと決めています。子どもは『未熟な大人』でも、『天使』でもありません。脅しも、甘やかしもなく、事実を根拠に、嘘なしで話します。保育者にも、嘘や恐怖で子どもをコントロールすることを禁止しています。たとえば、公園から帰りたくないと訴える子に対して、「じゃあ、おいて行っちゃうよ。バイバイ」といった声かけをする事は禁止です。保育者は子どもにとって絶対的強者です。しかしながら、子どもに「いいよ、おいてって。バイバイ」と返されると、(当たり前ですが)子どもをおいてくる訳には行きません。そうなると強者が逆転。先生の言葉は嘘だから信じなくていいな、と誤学習されてしまいます。嘘や恐怖を使ったコミュニケーションは結局、人間関係にとってマイナスです。大人にも子どもにも、必ず事実を伝え、柔軟な発想で相手に寄り添えるだけ寄りそう。そして無理な事は、申し訳ないけれど無理と伝える。これがグレースこども園の基本スタンスです。 園長 山田 裕宇記